

医療

コロナ禍を生きる

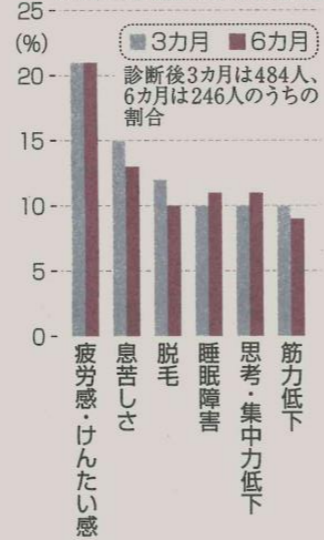
新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いたように見せているが、これまでに感染した患者の多くが後遺症に悩まされている。今回の「新・ひょうごの医療」コロナ禍を生きる」は、コロナ患者のうち、半年後も4人に1人程度が現れるとされる後遺症を取り上げる。厚生労働省が示す後遺症の診療方針や、兵庫県内で、患者を積極的に受け入れる尼崎市のクリニック、相談窓口を開設した神戸市の取り組みなどを取材した。

(井川朋宏)

後遺症患者への対応

新型コロナ診断から3カ月・6カ月後の主な症状

(注)厚生労働省の資料より作成



新型コロナの主な後遺症

全身	呼吸器	精神・神経	その他
けんたい感	せき	記憶障害	嗅覚障害
関節痛	たん	集中力低下	味覚障害
筋肉痛	息切れ	不眠	どうき
	胸痛	頭痛	下痢
		抑うつ	腹痛

(注)厚生労働省の「罹患後症状のマネジメント」より作成

厚生労働省は従来の診療の手引とは別に、初めて「罹患後症状のマネジメント」を公開した。同症状の定義については「少なくとも2カ月以上持続し、ほかの疾患と分類している。

慶応大学の研究グループによる患者約500人の調査では、診断から半年後も、患者の1割以上に疲労感や倦怠感、息苦しさ、睡眠障害、思考力・集中力低下がみられた。また、国立国際医療研究センター（東京）の調査では、今春までに感染した4577人のうち26%が半年後、9%が1年後も症状があった。

■今春から目立つ受診
県内の医療機関でも、後遺症患者の対応に追われている。これまで新型コロナウイルス患者約12

頭痛、震え…症状「百人百様」

医師「精神面のケアも必要」



多様な後遺症患者に対応してきた長尾クリニックの長尾和宏院長=尼崎市昭和通7

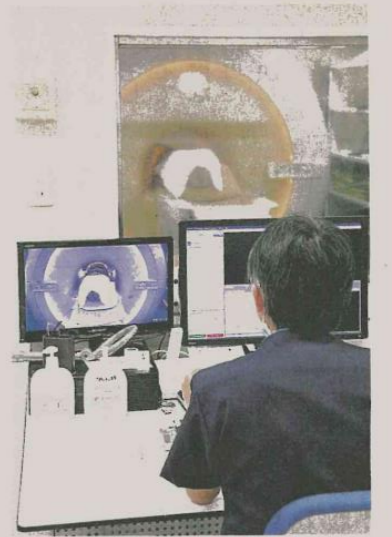
00人を受け入れてきたという長尾クリニック（尼崎市）。今春からは毎日10人程度、主に昨秋以降に感染した後遺症患者が訪れるようになった。

味覚・嗅覚障害、頭痛、集中力低下、倦怠感、疲れやすさ、手足の震え、息苦しさ、食欲不振、脱毛…。その症状は多岐にわたり、長尾和宏院長（63）はありとあらゆる症状があり、百人百様」と表現する。

患者の年代は30～50代が多く、中には半年以上症状に悩まされる人も。いくつもの医療機関を巡り、検査や服薬を経て、遠方から訪ねる患者も目立つという。

柔軟治療、歩行推奨

同クリニックでは、主に漢方薬や亜鉛製剤、ビタミンD製剤、サプリメント、点滴療法など、症状に合わせた柔軟な治療を施す。

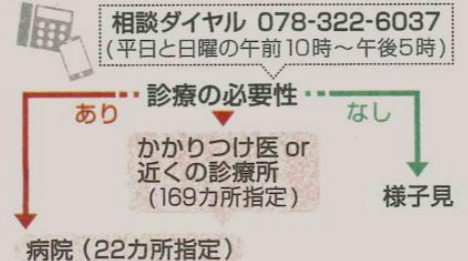


後遺症の診断で、脳を調べる磁気共鳴画像装置(MRI)=神戸市兵庫区大開通9、吉田病院(同病院提供)

す。感染時に対応した患者には、その時から後遺症の予防策として、療養する自宅やホテルの部屋でもできるだけ歩くことを推奨。陰性となった後も、有酸素運動として、1日3回の散歩を勧める。

患者の中には、ホテル内の一室で10日間隔離生活を送り、不安や孤独にさいなまれて大きなストレスを負った人が多くいることを指摘する。長尾院長は「肉体的だけでなく精神面のケアも必要で、医療者という伴走者が付いていることが大事」とし、療養者への対応強化の必要性を訴えた。

神戸市の新型コロナ後遺症 相談の流れ



ほかに、脳神経疾患専門の吉田病院（神戸市兵庫区）でも、9月に後遺症患者19人に対応。磁気共鳴画像装置（MRI）な

専門医が症状別に解説 厚労省、診断手引公開

厚生労働省は、医療機関向けに新型コロナウイルス後遺症の診断方法などをまとめた診療の手引別冊「罹患後症状のマネジメント」を作成した。全国の専門医約20人で構成される編集委員会が、約30分にわたり症状別など10項目を解説。ホームページで公開している。

同編集委によると、医療者側が診

療を拒み、患者が医療機関を転々として症状が悪化する事態を懸念。標準的な診療とケアについてまとめようという声が強まったという。

感染後の症状は、軽症から長期にサポートが必要な症状まで幅広いという。基本的には、かかりつけ医らが経過観察や対症療法を施し、必要に応じて専門医を紹介するよう促し

ている。

症状別では、呼吸器症状として、息苦しさや突然生じたり、悪化したりした場合、早期治療を要する場合は、感染による心筋障害が原因となる慢性心不全や不整脈は、「致命的で緊急対応を要することがある」と

注意喚起する。

味覚障害には、嗅覚障害を伴う症例が多く、「風味障害」になっているとも指摘する。ほかに精神・神経症状や痛み、小児への対応、リハビリについても解説。厚労省はまだ不明な点が多いとして、手引を適宜改定していくという。

◇「新・ひょうごの医療」は、毎月第2日曜日に掲載します。次回は来年1月9日です。電子版「神戸新聞NEXT」に過去のシリーズの特集ページがあります。

ご意見、ご感想をお寄せください

神戸新聞社報道部医療・科学チーム
「新・ひょうごの医療」係 〒650-8571（住所不要）
☎078-362-7040、FAX078-360-0629、
メールアドレス iryou@kobe-np.co.jp